

第4回 幼保小合同研修会

日時 令和6年9月17日(火) 午後3時～午後4時40分

場所 ニコニコ子ども館5階 ふれあい学級(オンラインとのハイブリッド研修)

教育講演

「質の高い教育・保育を提供するために」
～「幼保小の架け橋プログラム」を踏まえて～

大阪総合保育大学 児童保育学部

特任教授 神長 美津子 氏



神長先生は、高知県教育委員会架け橋カリキュラムの取組にも関わっており、実践事例も紹介していただきました。

講師の神長先生は、宇都宮大学教育学部附属幼稚園に長年勤務され、現在は大学で指導者育成のために教鞭をとられています。また、文部科学省架け橋特別委員会の委員や幼児教育の実践の質向上に関する検討会副座長として重責を担っておられました。今回は、子ども達が生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、私たち教育・保育者は、どのような点に留意して指導していけばよいのかを、「幼保小の架け橋プログラム」を踏まえてご指導いただくとともに、実践のヒントを学びました。

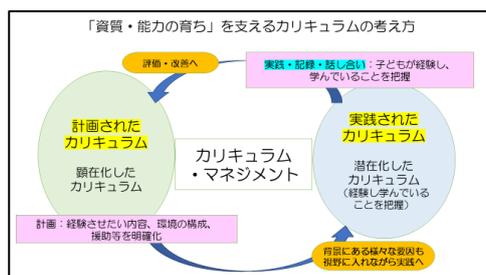
※参加者→幼稚園・保育所(園)・認定こども園・

小学校関係者等 86名(内オンライン研修69名)



【講演の主な内容】

- 「質の高い教育・保育」と、幼保小の架け橋プログラム
- 「遊びや学びのプロセス」を捉える
- 架け橋期のカリキュラム作成



「資質・能力の育ち」を支えるカリキュラムの考え方

■質の高い幼児教育・保育の実現のために考える視点

- ・ 幼児教育においては「主体的・対話的で深い学び」を通して、資質・能力を育む。
- ・ 幼児教育が「小学校以降の生活や学習の基盤」となっていくためには、「遊びの楽しさ」の中にある「深い学び」を捉える。遊びのプロセス、学びのプロセスに注目する。

■架け橋期のカリキュラム作成

- ・ 幼児教育は、小学校教育を見通し、学びの芽生えとしての豊かな体験(「深い学び」)を保障するカリキュラムへ。
- ・ 小学校教育は、幼児教育の遊びや学びのプロセスを踏まえ、それらを指導の工夫に生かしスタートカリキュラムを深化させていく。

【アンケートから～参加者の声～】

- 5歳児から1年生の2年間の架け橋期の教育の充実を図るための「架け橋カリキュラム」の作成が大事であること、については具体的な事例をも、お示し頂き方向性を見いだすことができました。
- 幼保と小の連続性やお互いの歩み寄りの大切さを講演で実感しました。幼保は小学校のことを小学校は幼保のことをもっと知る必要があり、お互い顔の見える関係を大切にしていきたいと思えます。